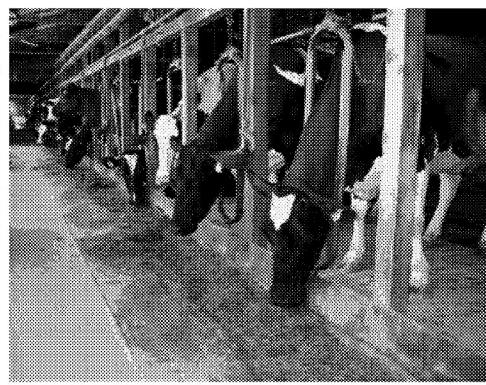


と建築資材製造のファブリック大西（福岡県大刀洗町）は酪農学園大（江別市）と葉草を使った家畜飼料を共同開発した。■の■植物「カンゾウ」（甘草）の成分を抽出。飼料に混ぜると牛乳の■など、■があることを実証した。牛乳の生産性向上にもつながるとみる。両社は道内を中心に酪農家へ販売、3年以内に売上高30億円を目指す。

■があれば、乳量増したりして使用してもらおう。まず道内の大規模経営につながることが期待される。環太平洋経済連携協定（TPP）を巡っては道内の牛乳・乳製品の生産減少などの影響が懸念されている。ファブリック大西の大西誉郎社長は「酪農業の生産性を高め収益アップに貢献したい」と話す。

酪農学園大など



開発した甘草飼料を食
べる乳牛（江別市）

肝機能改善を確認

牛乳生産性向上へ

甘草飼料は■が中国や中央アジアから原料を輸入・加工し、協力会社の国内工場で生産、ファブリック大西が販売を担う。■は原料の用途や販路拡大で、ファブリック大西は新分野進出で経営多角化を狙う。

甘草から抽出される成 分は■の70%に含まれる主要な■味料や化粧品の原料とし

■は■の甘味の甘さを健全に維持できることが分かった。

■に一定

■は■の70%に含まれる主要な■味料や化粧品の原料とし

■は■の甘味の甘さを健全に維持できることが分かった。

■に一定

■は■の70%に含まれる主要な■味料や化粧品の原料とし

■は■の甘味の甘さを健全に維持できることが分かった。

■に一定

使い牛用飼料

同社は甘草抽出物100%の粉末飼料として販売する。牛のエサに添加したりペレット状に加工

後120日間に与えた結果を

したところ、与えなかつた個体よ

りも■を健全に維持

できることが分かった。

る。将来は道外のほか、ニュージーランドや台湾への輸出も検討する。